

重誓寺報

第44号 令和元年7月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) 重誓寺
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090

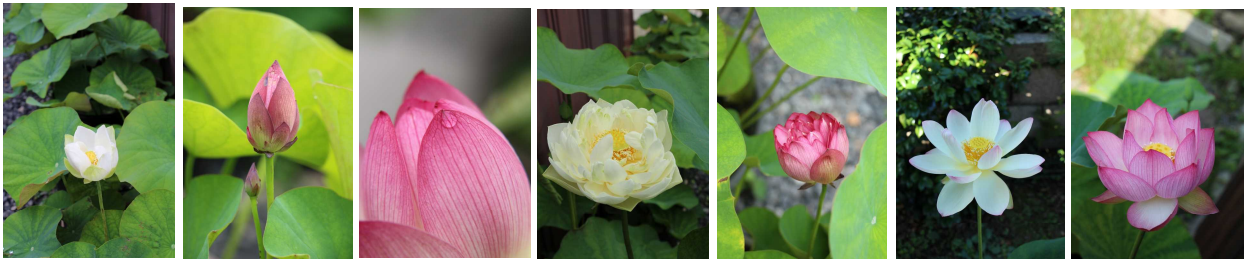
梅雨になり、蓮の花が次々と咲いています。蓮の花は極楽浄土の花と言われ、仏様は蓮華座と呼ばれる蓮の花の台座に乗っておられますし、仏具にも蓮の形をしたものが多くあります。

仏教にとって蓮はとても大切な植物なのです。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」と言われるように、池の底の汚れた泥の中から茎を伸ばし、美しい花を咲かせます。その様子は、極楽浄土に咲くにふさわしい存在として尊ばれ、決して清らかなれない人間社会に、私たちを救わずにはおられないと出でて下さった、まさに仏様の姿としてとらえられています。

大賀蓮おおがはすという大型の花を咲かせる種類があります。

二千年以上前の古代の地層から見つかった実から育てられた種類です。その時の植物学者、大賀一郎氏の名前をとって大賀蓮と名付けられ、今ではそれが各地に広がり、蓮の代表的な種類となっています。

二千年以上前と言え、インドでお釈迦様がお出ましになり、仏教が始まった頃であります。その頃と同じ花が現代に咲いている事を思うと、混沌とした現代に、まさに仏様の教えが届けられている事を感じます。



法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

常例法座

七月二十日(土) 午後二時

講師 羽曳野明教寺 不死川浄師

秋季永代経法要

九月二十日(金) 午後二時、七時

二十一日(土) 午後二時

講師 東淀川萬福寺 寺本正尚師

以降は追ってお知らせします。

かんぎえ 歓喜会(お盆)

ジャズライブ

8月3日(土)

午後3時より

お勤め・法話 住職

ライブ

REIKO

(ヴァイオリン)

筒井裕之

(ギター)

井野アキヲ

(ギター)



心に残った法話のお言葉

私は仏様から見ると、何事も見えてない凡夫であります。それがお念仏によって悟りを得る。悟りとは悩み・苦しみの炎を消すということです。

(二月 巖水法乗師)

お寺に来て手を合わせることに、なぜ生きるのか考えることが大切です。答えは仏様におまかせできるかどうかです。それが信心にたたくということなのです。

(三月 味府浩子師)

私がこうして居られるのは、先祖のご苦労によるお陰であることに気づかなければなりません。その場が法事なんです。

(四月 藤岡良治師)

親鸞聖人誕生からもうすぐ八五〇年、教えが伝えられて八〇〇年。真実の教えであるからこそ続いているのです。

(五月 高澤正文師)

親鸞聖人と讃の教え

如来興世の本意には

本願真実ひらきてぞ

難値難見とときたまひ

猶霊瑞華としめしける

(浄土和讃 五四)

釈迦如来が世に出られたのは、阿弥陀如来の願いが私たちに向けられていることを教えられるためでした。そして阿弥陀如来の願いに出遇うことは稀なことであり、難しいことなのだとして示されました。

浄土真宗の教えを伝える「歎異抄」という書物があります。親鸞聖人の教えを直接お聞きになっている唯円という方の著作であると言われています。

親鸞聖人が九十歳で往生された後、その教えはいろんな方々に受け継いでいかれました。しかし中には理解が違ったり、勝手に

な想像で語られるなど、教義が間違った伝え方をされるようになったのです。その状況を嘆き、自分が聖人から聞いたことをそのまま書き記しておこうとされたのが、この歎異抄という書物なのです。

親鸞聖人のことばをそのまま記し、最後に私はこのようにお聞きしましたと締められています。簡潔でわかりやすい入門書としても親しまれています。解説本も多く出ていますので、是非お読み下さい。

当時は伝えるには、口伝や文字で書き写すしかなかった時代ですから、伝わるごとに徐々に違ってくるのは仕方ないことであつたのでしよう。

現代においては、文字は印刷され、またデータ化されて誰にも同じものが伝わるようになりました。しかしそれは逆に言えば、ねじ曲げられた情報も、さも本当のように伝わってしまうことにもなります。

本物が何なのか見分ける力が、私たちに必要とされています。

法然誕生寺

を訪れてきました。

岡山県美作みまさかの静かな地にあり、落ち着いたゆつたりと出来るお寺でした。

法然聖人は浄土宗の開祖として知られます。平安から鎌倉への末法の時代、修行ではなく一筋に阿弥陀仏を信じ、念仏によって救われる事を説かれました。

親鸞聖人は同じように比叡山で修行されますが、どうしても悟りを得ることが出来ず悩んでいる時、法然聖人のお念仏に出遇

われます。この法然聖人との出会いがなければ、浄土真宗はありませんし、それどころか今の日本は全く違ったものになっただけかも知れません。

機会があれば一度訪ねてみて下さい。



ご注意

浄土真宗は、言うまでもなく親鸞聖人がお説き下さった教えに基づいています。

しかし、この教えを私たちが違った理解をしている教団もあることは事実です。

現在公開されています「歎異抄をひらく」という映画は、「親鸞会」という教団によって作られています。この親鸞会は私たち浄土真宗本願寺派をはじめ、真宗教団連合に属さない新興宗教です。リッパ企画という名で出版したり、公共の施設を借りて、親鸞聖人の講座を開いていることもあります。

もちろん、宗教の信仰は個人の自由ですが、その正体を隠して活動していることもあり、注意が必要です。

お参りの変更や相談など、ちょっとした連絡をメールでもお聞きします。お気軽にお問い合わせ下さい。ただし急ぐ場合や返事が無い時は必ず電話でお願いします。

重誓寺 E-mail juseiji@gmail.com (携帯)

TEL 06(6951)0090